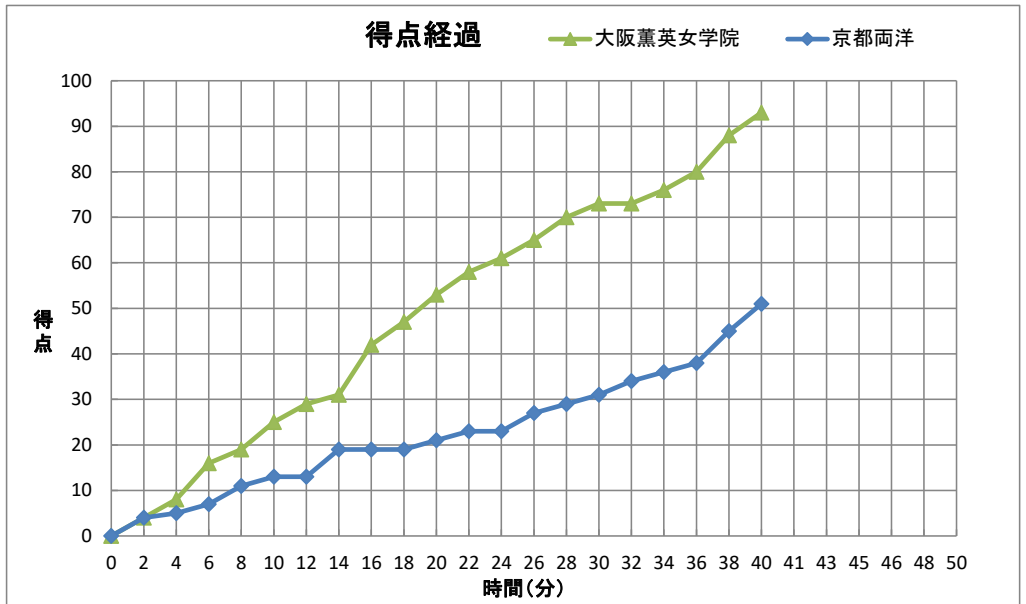




令和4年度  
第33回近畿高等学校バスケットボール新人大会

個人トータル表

女子		2月18日		15:50 開始									
準々決勝		滋賀ダイハツアリーナ		A									
◎		25 1st 13		51 京都両洋									
大阪薫英女学院 93		28 2nd 8											
		20 3rd 10											
		20 4th 20											
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
* 4	木本 桜子	7	1	2	0	0	* 1	ユスス カオナラ ボルツチフェ	0	0	0	0	1
* 5	島袋 栞	24	2	7	4	0	2	杉山 心月	7	1	2	0	1
* 6	木本 桃子	10	0	5	0	0	3	森口 笑来美	-	-	-	-	-
* 7	村松 由梨	8	1	2	1	1	* 7	木谷 夢菜	17	1	6	2	4
8	松本 汐音	0	0	0	0	0	8	谷口 心綾	2	0	0	2	3
9	松本 莉緒奈	6	0	2	2	1	10	日渡 理緒	-	-	-	-	-
10	川上 愛結	6	2	0	0	0	11	川口 麦菜	-	-	-	-	-
* 11	下崎 好	8	0	3	2	1	16	井上 明梨	-	-	-	-	-
12	吉田 華子	8	0	3	2	4	18	中野 有佳子	-	-	-	-	-
13	高橋 心愛	0	0	0	0	0	* 31	城地 あさひ	2	0	1	0	2
14	福原 怜愛	14	4	1	0	1	34	高桜 美咲	-	-	-	-	-
15	荒木 花愛	0	0	0	0	0	* 49	西川 優月	8	0	4	0	2
16	兼田 紬奈	0	0	0	0	0	* 68	木村 香穂	15	0	6	3	1
17	小俣 亜矢	2	0	1	0	1	69	廣浦 杏	-	-	-	-	-
18	西尾 咲希	0	0	0	0	0	77	林 英美	0	0	0	0	0
コーチ	安藤 香織					0	コーチ	吉田 聡					0
Aコーチ	長渡 由子						Aコーチ	甲良 泰明					
合計		93	10	26	11	9	合計		51	2	19	7	14
主審: 高橋 直子													
副審: 小松 綾実													
副審: 麻田 優													



CTO	1・2P	3・4P	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	:	:	:	:
TeamB	5:21	14:17	21:21	34:38	:	:

〔戦評〕  
女子準々決勝は第1シード大阪薫英女学院（大阪1位）と京都両洋（京都2位）の対戦となった。薫英女学院 #4 #5 #6 #7 #11、京都両洋 #1 #7 #3 #1 #4 #9 #6 #8 のスタートメンバーで試合開始。  
第1Q、両チームともマンツーマンでスタート。薫英 #5 のシュートで薫英女学院が先制するも、すぐさま両洋 #7 のシュートで同点とする。薫英の激しいディフェンスプレッシャーに対して、両洋は鋭いドライブで切れ込んでいくが、なかなか抜け切ることができず、14-5 で両洋1回目のタイムアウト。その後も薫英は #5 の粘り強いリバウンドやドライブからの合わせを中心に得点を重ねていく。両洋は薫英の1対1をなかなか守り切ることができず、25-13 で薫英がリードして第1Qが終了。  
第2Q、薫英のオールコートマンツーマンプレスを両洋はうまく突破することができず、ミスが連続する。残分5、33-19 となったところで両洋、前半2回目のタイムアウト。薫英は徹底したスクリーンアウトで攻守に渡ってリバウンドでもアドバンテージをとる。薫英はスクリーンなどでうまくスペースを作り、特定の選手に偏ることなく1対1を仕掛け、得点を重ねていく。両洋もシュートチャンスは作るものの、決めきることができず、53-21 で薫英がリードして前半終了。  
第3Q、両チーム、前半と同じメンバーでスタート。薫英は粘り強いオフェンスリバウンドでシュートチャンスを増やすとともに、1対1で両洋のファールを誘い得点差を広げる。また、#7、#14、#10 などの3Pの得点も徐々に増えてくる。一方両洋は、後半になっても薫英のオールコートマンツーマンプレスを突破することがなかなかできず、苦しい展開が続く。両洋 #7 のジャンプシュートや #6 #8 のドライブで得点するも連続した得点とはならず、追いつきの起爆剤とはならない。73-31 で薫英がリードを広げて第3Q終了。  
第4Q、両洋は #1 #2 #7 #4 #9 #6 #8 とほとんどスタートメンバーを残す中、薫英は #8 #9 #10 #12 #14 とメンバーをすべて入れ替えてスタート。薫英は素早いパス回しでシュートチャンスを作り、#10 や #14 の3Pなどで加点。一方、両洋もスクリーンプレーやドライブから #7 の3P や #6 #8 のレイアップで加点し、一進一退の攻防となる。残分5、78-36 で両洋がタイムアウトを取るも、そのまま点差は縮まらず、93-51 で薫英が勝利した。  
薫英の攻守に渡る1対1やリバウンドの強さと連携したオフェンス・ディフェンスが光るゲームであった。